

# 日本線虫学会ニュース

## Japan Nematology News

### 目次

◆巻頭言（岩堀 英晶）	1
◆事務局から	2
◆2019年度日本線虫学会大会（第27回大会）の開催予告（大会事務局）	3
◆記事	
自己紹介と熊本大会の振り返り（桐野 巴瑠）	4
第33回ヨーロッパ線虫学会に参加して（小野 雅弥）	5

### [ 巻頭言 ]

岩堀 英晶（龍谷大学）

会長職を仰せつかり、間もなく2期4年が過ぎようとしています。この間、特に大きな問題もなく、順調に学会運営が行われましたのも、評議員、編集委員、および各種委員の皆様、そして事務局長・立石さん、庶務幹事・植原さん、会計幹事・秋庭さんのご尽力の賜物と思っております。無精者の会長を4年間忍耐強く支えていただき、ありがとうございました。就任当初に私が目指した日本線虫学会の姿である「小さな学会ならではの利点を生かし、会員間の密な関係と情報交換、そして若手が活き活きと活躍できる場」が、いくらかでも実現されたと感じていただけましたら、少しはこの学会のために貢献できたのではないかと思います。一つの成果として「若手研究者ポスター賞」が創設されたことは大変良かったと思っています。この賞が若い人たちの励みになることを期待しています。

この4年間は私にとっても激動の日々でした。

農研機構から大学に籍を移し、自由な世界に移れたと思っていたところが、会議や書類作成や学内委員等、様々な雑用が以前より多くなり、時間を取られることになるとは思いませんでした。また、九州沖縄農研では広い研究室と圃場と温室が自由に使えましたが、こちらではほんのわずかです。線虫関係の文献もありません。研究環境はかなりのグレードダウンとなりました。しかし、これらのマイナス点があったとしても、これからの農業や農業関連の仕事を担ってゆく若者たちに線虫の知識を伝えることは、何より意義のあることだと感じています。

今後、日本線虫学会に期待されているのは、国際的な場での活躍ではないかと思っています。先日行われたヨーロッパ線虫学会においても若手がずいぶん活躍してくれましたが、それ以上に中国や東南アジアの若手の躍進が目立ちました。2020年にはフランスで国際線虫学会があり、日本の若手の活躍がますます期待されます。また、来年度には日韓線虫学シンポジウムが計画されています。学会の台所事情は必ずし

も潤沢ではありませんが、若手の国際学会への参加に対し、僅かでも援助を行うべきではないかと思っています。次期の会長には私以上の牽引力を発揮していただき、これまで以上に会員への利便を図っていただきたいと思います。

以上をもって退任の挨拶と致します。4年間ありがとうございました。

## [ 事務局から ]

### 2019～2020 年度日本線虫学会会長選挙及び評議員選挙について

2019年3月末をもって、日本線虫学会の現役員の任期が満了となります。本会会則に従って、2019～2020年度の会長選挙及び評議員選挙を実施します。会長及び評議員は本学会の運営に責任を持ち、その発展を左右しますので、その選出にはより多くの会員の意見が反映されることが重要です。同封の案内文書に記載の投票上の注意事項をご確認の上、下記締め切り日までに投票をお願いいたします。

会長は、被選挙人名簿中の正会員から1名を選び、「会長選挙用の投票用紙」にその氏名を正確に記入してください。なお、会則第12条第2項「会長は、会員の投票によって選出する。ただし、連続して3期以上の任期を務めることはできない。」から、現在2期連続で会長に選出されている岩堀英晶氏は、今回の選挙では会長に選出されません。評議員は、被選挙人名簿中の正会員から10名以内を選び、「評議員選挙用の投票用紙」にその氏名を正確に記入してください。

会長選挙用投票用紙及び評議員選挙用投票用紙は、内封筒(無記名)と一緒にに入れて封をし、返送用封筒(投票者の住所及び氏名を必ず記入する)に入れて、学会事務局内選挙管理委員会宛に郵送してください。恐れ入りますが、返送用封筒の郵送に要する費用は、会員各位のご負担とさせていただきます。

被選挙人名簿、会長選挙用投票用紙、評議

員選挙用投票用紙、内封筒及び返送用封筒(宛名印刷済み)は、本ニュースに同封しております。投票の締め切りは、2019年3月11日(月)必着とします。本選挙に係る会則及び選挙細則は被選挙人名簿に記載されています。

### 2019 年度会費納入のお願い

同封の会費納入依頼文書をご確認の上、2019年度会費¥4,000(正会員)を郵便振替で納入してください。本学会の会費は前納と定められておりますので、2019年3月31日までに納入してください。2018年度以前の未納の会費がお有りの方は、併せて納入をお願いいたします。本学会は会員の皆様の会費により運営されており、会費の滞納は学会運営に支障を来します。皆様のご協力をお願いいたします。なお、正会員が学生会費¥2,000の適用を受けるためには、大学等の在籍証明(郵便振替用紙の通信欄への指導教員の署名・捺印でも可)が必要です。また、退会を希望される方は事務局まで必ずご連絡ください。

### 第26回日本線虫学会大会報告

2018年9月4日～6日に熊本市国際交流会館において、第26回定期大会が開催されました。大会参加者は133名でした。一般講演の口頭発表は24題、ポスター発表は22題でした。今大会から創設された若手研究者ポスター賞は、桐野巴瑠さん(明治大)が受賞されました。公開シンポジウム“「新」線虫研究～加速する多様化と応用への期待”では5題の講演がありました。

#### 1. 評議員会報告

2018年9月4日に熊本市国際交流会館第1会議室で評議員会が開催されました。その概要は以下のとおりです。

2017年度の会務(定期大会・総会・評議員会及び編集委員会の開催、学会誌及びニュース

レターの発行)、会計決算及び会計監査結果が報告され、評議を経て承認されました。

2018年度の事業計画(定期大会・総会・評議員会及び編集委員会の開催、学会誌及びニュースレターの発行、会長選挙並びに評議員選挙)及び予算案が説明され、評議を経て承認されました。

## 2. 編集委員会報告

評議員会に続いて開催された編集委員会では、学会誌第48巻の編集状況及び投稿原稿の審査状況が報告されました。また、日本線虫学会ニュースNo. 73で報告いたしましたように、学会誌の印刷費の節減のため、報文著者への別刷50部の贈呈を中止することなどの投稿規程の改正案が審議され、承認されました。また、「線虫関連国内文献目録」は編纂者の意向により、48巻1号掲載の2015年分を最後に終了することとなりました。

投稿規程改正により、別刷の作成は有料オプションとなり、報文著者に贈呈されるのは、刷り上がった報文のPDFファイルのみとなりました。明記することはいませんが、希望により英文報文のPDFファイルには、本誌では巻末掲載の和文摘要を含めることができますのでご利用ください。また今次改正におきまして、これらのオプションは、原稿が受理された後に取り決めることといたしました。投稿時における、原稿の余白への別刷・オプション関係に関する朱書は不要になりましたので申し添えます。

### 日本線虫学会誌編集事務局より

—原稿投稿のお願い—

実は、Nematological Research 誌(日本線虫学会誌)49巻1号の発行に向けて校閲中の原稿が1本しかなく、その発行が非常に危ぶまれる状態です。会員の皆様におかれましては、Nematological Research 誌への投稿をなにとぞ

よろしく申し上げます。

48巻1号にいたしましても、掲載できる原稿が多ければもう少し早く発行できたと思います。第2号につきましては、この原稿を書いている2018年末の段階で、受理されて掲載可能な原稿数本がそろいましたので、これより発行作業を急ぎ、2月中に会員の皆様のお手元にお届けしたいと考えております。

## 3. 総会報告

2018年9月4日に熊本市国際交流会館ホールで総会が開催され、2017年度の会務報告、会計報告及び会計監査結果並びに2018年度の事業計画案及び予算案が承認されました。当学会が加盟している日本分類学連合及び日本昆虫科学連合の活動が報告されました。第27回定期大会の開催予定が説明されました。投稿規定の一部改定が報告されました。

評議員会、編集委員会及び総会の各議事要旨は、学会誌第48巻第2号の会報に掲載されます。

## [ 2019年度日本線虫学会大会(第27回大会)の開催予告 ]

大会事務局

2019年度日本線虫学会大会は、茨城県つくば市の文部科学省研究交流センターにて開催いたします。期間は9月11日(水)～13日(金)を予定しております。次回の学会ニュース77号(5月発行予定)にて、より詳細な情報を連絡させていただきますので、どうぞよろしく申し上げます。

### 1. 大会事務局

〒305-8666

茨城県つくば市観音台2-1-18

農研機構中央農業研究センター線虫害グループ

第 27 回日本線虫学会大会事務局

(代表 岡田浩明)

電話: 029-838-8839

Email: hokada\*affrc.go.jp (\*を@に変換)

運営委員: 岡田浩明・立石 靖・植原健人(中央農業研究センター)、荒城雅昭(農業環境変動研究センター)、小坂 肇・秋庭満輝(森林総合研究所)



新屋先生とかわいい仲間たち

## 2. 日程 (変更になることもあります)

◇2019年9月11日(水)

評議員・編集委員会

◇2019年9月12日(木)

一般講演、総会、懇親会

◇2019年9月13日(金)

一般講演、特別シンポジウム(内容未定。開催が12日になる可能性もあります。)

## [ 記 事 ]

### ◇ 自己紹介と熊本大会の振り返り◇

桐野 巴瑠 (明治大学)

はじめまして、明治大学農学部4年の桐野巴瑠と申します。一昨年の4月に新屋先生が立ち上げました植物線虫学研究室にて、1期生としてご指導いただいております。以前に新屋先生が寄稿した際(No.72)は、まだ研究室はセットアップの段階でありましたが、立ち上げから2年目に入り、愛らしい後輩も増え、徐々に研究が軌道に乗り出してまいりました。この度、線虫学会ニュースに寄稿する機会を頂きましたので、自己および研究室の紹介を兼ねて、初参戦した線虫学会を振り返っていきたくと思います。

私達の研究室で扱う線虫は、モデル生物の *C. elegans* やオキナワザイセンチュウだけでなく、植物寄生性線虫のマツノザイセンチュウやサツマイモネコブセンチュウ、昆虫寄生性線虫ではカメムシに寄生するシヘンチュウ、日本テレビの

「ザ! 鉄腕! DASH!!」で取り上げられたヒラタケ白こぶ病の病原線虫(2018年12月16日放送)など…と多岐にわたり、メンバーそれぞれの興味に合わせて、全く異なるテーマで楽しくのびのびと研究を行っております。中でも私は主にマツノザイセンチュウに関する研究を行っており、3月に開催された森林学会と応用動物昆虫学会でお会いした方々とは先にご挨拶をさせていただきました。

そして昨年9月に開催された熊本大会において、ついに待ち侘びた線虫学会デビューを果たし、口頭とポスターの双方で発表をいたしました。熊本には美味しい郷土料理がたくさんありますが、辛子蓮根がなにより大好きな私にとって熊本はそれだけで心躍る開催地であり、気を引き締めて学会準備に挑みました。発表前日に熊本に到着し、まず、研究室のメンバーでいそいそと居酒屋へ向かい、揚げたての辛子蓮根とさっぱりした馬肉を堪能しましたおかげで、心地よい二日酔いと共に最高のコンディションで発表当日を迎えることができました。

はじめての線虫学会、はじめての口頭発表、そして第1回若手研究者ポスター賞の創設…緊張や不安を感じるよりも胸が膨らむ思いが強かったのは、もちろん熊本の美味しい文化だけが理由ではなく、お名前を何度も目にしたことのあるレジェンドのような研究者の方々と実際にお

会いできることが、何よりも楽しみで仕様がなかったからでした。実際ポスター発表や懇親会では、そのような線虫のプロフェッショナルと一対一でお話をさせていただく時間ができ、様々な視点からのご教授並びにご助言を頂きました。自分の勉強不足を痛感する場面も多々ありましたが、あまりプレッシャーは感じずに常時楽しみながら刺激的な時間を過ごすことができましたのは、線虫学会のアットホームな雰囲気のおかげであると思います。



ポスター賞受賞時の新屋先生(左)と筆者(右)  
(奥村悦子さん撮影)

今回の学会発表では、ありがたいことに若手研究者ポスター賞という形で発表を評価していただきました。まだまだヒヨコな私ではありますが、これを励みにより一層研究に力を入れてまいりたいと思います。新参者と仲良くしてくださいました学会参加者の皆さま、泥酔女をいつも優しく叱ってくれる研究室の皆さま、そして未熟な私を褒めて伸ばして下さる新屋先生への感謝の気持ちを忘れずに、これからも精進してまいります。4人の同期と共に修士課程に進学する私を含め、来年度から研究室メンバーは20人を超える予定であります。引き続き学会や論文等を通して研究報告をさせていただきたいと思っておりますので、さらに大所帯となって勢いを増す明治大学線虫研を、今後ともよろしく願い申し上げます。

### ◇第33回ヨーロッパ線虫学会に参加して◇ 小野 雅弥 (佐賀大学)

はじめまして、佐賀大学(鹿児島大学連合農学研究科)博士後期課程2年の小野雅弥と申します。自己紹介も合わせて第33回ヨーロッパ線虫学会(以下 ESN)のご報告をさせていただきます。私は *C. elegans* を使って、線虫が昆虫の免疫を回避するメカニズムについて研究しております。線虫が本来持つ寄生虫としての能力を明らかにすることが私の大きな目標です。現在の佐賀大学線虫学研究室は男性3人、女性7人と女性が多く、とても賑やかです。その中で私はゆるキャラのような扱いを受けており、少々複雑ですが、比較的幸せな日々を送っております。来年、研究室に配属される新3年生も全員女性だそうで、しばらくこの状態は続きそうです。

ESNは9/9~9/13の5日間の日程でベルギーのゲントで開催されました。ゲントの街並みはとても美しく、映画やTVでしか見たことがない景色が広がっていました。ゲントは観光地としても有名で、多くの歴史遺産が街の観光スポットになっています。9月のゲントの気温は日本の北海道並みで少し肌寒いです。私は終始半袖でした。日本をお昼頃に出発し、フィンランドのヘルシンキを経由して、ベルギーの首都ブリュッセルに到着しました。ブリュッセルからゲントまでは電車一本で行けました。飛行機だけで13時間ほどかかりますが、飛行機と電車のみで行けますので、海外初心者の私でもほとんど迷うことはなかったです。日本とベルギーの時差は7時間あるため、到着してもゲントの街は日が昇っていました。ESN期間中は私の先輩である浴野さん(D3)と三重大学の北上君(D2)の3人で行動していました。お二人は国際学会の経験がありましたが、私は海外自体初めてでしたので、2人がいてくれてとても心強かったです。



ストリートセッションする筆者(左奥)

ESNの初日は夕方からのWelcome Receptionのみで、発表は2日目からでした。ESNのセッションは植物寄生性線虫や昆虫病原性線虫がメインでした。昆虫病原性線虫の発表は日本ではなかなか聞く機会がないので、うれしい限りでしたが、生物防除についての発表がほとんどで、私の研究分野である線虫に対する昆虫の免疫についての発表は一つもありませんでした。少し残念でしたが、新しい研究の流れを自分が作るというモチベーションになり、逆に奮い立ちました。私の出番は3日目の夕方からで、ポスターでの発表を行いました。発表自体は練習のおかげでスムーズにいきましたが、質問にうまく答えることができませんでした。やはり、話すことは話すことでしか上達しないということを実感させられました。それでも、おもしろいね、とってくれる方もおり、自分の研究が世界の人達にはほんの少しでも受け入れられた気がしてうれしかったです。発表終わりに、昆虫病原性線虫

の研究者の一団と食事に行くことになりました。その道中に、持っていたポスターを広げさせられ、街中でポスターセッションをさせられました。とても恥ずかしかったです。

発表を聞く以外はゲントの観光などをして過ごしました。基本的には「地球の歩き方」に従い、ゲントの街を散策しました。柄にもなく美術館に行き絵画を眺めたり、ワッフルやハンバーガーを食べたり、大聖堂に行きスピリチュアルなものを頂いたりとゲントの街を楽しみました。観光以外には北上君に便乗してゲント大学の Bert 研究室を訪問しました。建物のワンフロアにある部屋はすべてが Bert 研究室の部屋でとても広かったです。ほかにも、電頭のために使われる部屋が4部屋ほどあり、電頭のプロである浴野さんは技術者の方と電頭談義で盛り上がり、楽しそうでした。

最終日は夕方からボートトリップとディナーパーティーでした。ボートトリップでは白ワイン片手



聖バーフ大聖堂前にて

にボートに乗り込み、ゲントの観光地としても有名なレイエ川を遊覧しました。川岸にそびえる歴史的建造物は夕日に映えてとても綺麗でした。ディナーパーティーでは日本から ESN に参加していた岩堀先生率いる龍谷大学の方々と熊本大学の澤先生の研究室の方々と同じテーブルで食事をしました。異国の地であるせいか、この ESN の間に日本人同士の結束力が不思議と強くなった気がします。締めはダンスパーティーで、参加者の多くが陽気に踊っていました。私は只々その雰囲気に圧倒されるばかりでした。

#### 【編集後記】

◆ いよいよ平成最後の年です。次号ニュースが発行される頃には既に新しい時代が始まっているんだなあとと思うとしみじみします。巷では、平成最後の日である平成 31 年 4 月 30 日を賞味期限とするポテトチップスが限定パッケージで発売されているとか。新元号がどうなるのか気になるころですが、新しい時代が災害のない平和な世の中となるよう祈るばかりです。 (竹内 祐子)

最終日の夜は盛況の内に更けていきました。

今回の学会から得られたものは多く、意味のある時間を過ごせたと思います。色んな研究者がおり、それぞれが自分の考えをしっかりと持ち、自信に満ち溢れているように見えました。私はその場の雰囲気や人に流されやすいタイプなので、その姿勢は見習うべきだと思いました。ほかにも改善すべき点や自分に足りない点は多くあると感じました。この経験を糧に日々精進していこうと思います。

◆ クラフトビールや海外のビールが好きで、普段から熊本の市街地に数軒あるビアバーを転々と飲み歩いています。ですが、秋頃からどの店も混雑でなかなか入れない。なんでも、某テレビドラマの影響で急に客足が増えたんだそう。放送後に一部クラフトビールが売切れになるなど、全国的にもちょっとしたブームになっているのだとか。テレビの影響って侮れませんか…。良い機会なのでほとぼりが冷めるまでしばし断酒します。 (村田 岳)

2019 年 1 月 31 日

日本線虫学会

ニュース編集小委員会発行

編集責任者 竹内 祐子

(ニュース編集小委員会)

京都大学大学院農学研究科 地域環境科学専攻

〒606-8502

京都府京都市左京区北白川追分町

TEL : 075-753-6060

FAX : 075-753-2266

E-mail : yuuko\*kais.kyoto-u.ac.jp

日本線虫学会ニュース第 76 号

ニュース編集小委員会

竹内 祐子 (京都大学)

村田 岳 (農研機構)

学会全般に関するお問い合わせ先 :

日本線虫学会事務局

〒305-8666

茨城県つくば市観音台 2-1-18

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業研究センター内

E-mail: shomu\*senghug.org

URL: <http://senchug.org/>